

調査レポート

グラフで見る関西経済(2012年8月)

【今月の景気判断】

関西経済は横ばいで推移している。海外経済の回復ペースの鈍化によって輸出に弱い動きがみられ、生産は横ばい圏での推移となっている。関西地区では輸出や生産における自動車関連の比重が低く、電気機械の比重が高いことが全国に比べて動きが弱い原因となっている。雇用環境は、完全失業率、有効求人倍率に改善がみられ、厳しい状況ながら持ち直しの動きが認められる。しかし、賃金は横ばい圏で推移しており、個人消費も持ち直しが一服し横ばいとなっている。公共投資は前年の水準が低いことに加え、災害復旧工事などの増加もあって増加が続いている。先行きは、設備投資の増加が期待されるが、全体としては横ばい圏での推移が見込まれる。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	→		→	輸出	↘		↘
個人消費	→		→	輸入	→		→
住宅投資	↗		→	生産	→		→
設備投資	↘		↗	雇用	→		→
公共投資	↗		→	賃金	→		→

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
2. シャド-部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気～中国などアジア経済の減速の動き、欧州財政金融危機の動向、国際商品市況の先行き
- ・企業活動～電力消費抑制の影響、輸出の動向、電気機械における在庫などの調整
- ・政治～衆院解散に向けた動き、橋下市政・維新の会の動向
- ・家計～所得の先行きと個人消費の回復の持続性、エコカー補助金終了後の自動車など耐久財の販売動向

～本レポートについては最終ページ「グラフで見る関西経済」の見方参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 塚田裕昭 (chosa-report@murc.jp)

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL: 03-6733-1070

【各項目のヘッドライン】

項目	7月のコメント	8月のコメント	ページ
1. 景気全般	横ばいで推移している	横ばいで推移している	3~4
2. 生産	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	5~6
3. 雇用	厳しい中で一進一退	厳しいものの、持ち直しの動き	7~8
4. 賃金	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	8~9
5. 個人消費	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移	9~11
6. 住宅投資	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	11
7. 設備投資	持ち直しつつある	持ち直しつつある	12
8. 公共投資	下げ止まっている	このところ増加している	13
9. 輸出入	輸出は弱い動き、輸入は横ばい	輸出は弱い動き、輸入は横ばい	13~14
10. 物価	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい	14
11. 金融	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい	15
12. 倒産	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに増加	15

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

(*) 参考資料:「グラフでみる景気予報」 [http://www.murc.jp/report/research/list.php?s\[\]=201](http://www.murc.jp/report/research/list.php?s[]=201)

【前月からの変更点】

3. 雇用

完全失業率は前月差で2ヶ月連続低下し、有効求人倍率は7ヶ月連続で上昇した。

5. 個人消費

自動車販売の好調が続いているものの、大型小売店販売額は前年比で4ヶ月連続減少し、消費者態度指数も2ヶ月連続で低下した。

8. 公共投資

公共工事請負金額は、前年比で4ヶ月連続増加した。

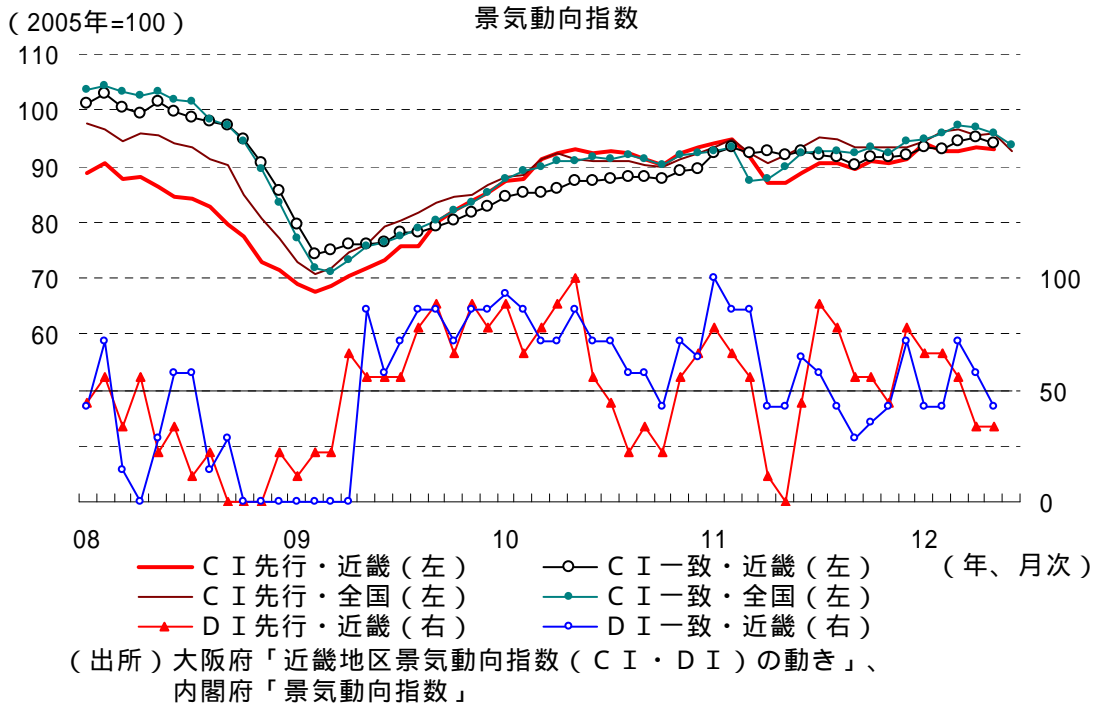
【主要経済指標の推移】

経済指標	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	2	3	4	5	6	7	
景気全般	日銀短観（近畿）業況判断D I 製造業（%ポイント）	-11	-7	-8	-10	-11	-10 <9月予想>					
	非製造業（ " ）	-19	-12	-9	-10	-12	-8 <9月予想>					
	景気ウォッチャー調査（近畿）現状判断D I（ " ）	38.1	48.0	45.7	48.1	48.2	47.6	52.0	53.3	48.2	43.2	45.9
	先行判断D I（ " ）	44.9	47.3	45.8	49.2	48.7	51.3	49.1	51.2	46.9	48.1	47.0
	法人企業統計（近畿）経常利益 製造業（兆円）	0.6	0.6	0.5	0.2							
	非製造業（兆円）	0.5	0.3	0.2	0.1							
	景気動向指数（近畿）C I 先行指数（05年=100）	87.5	90.2	90.9	93.1		92.7	92.7	93.5	92.9		
C I一致指数（ " ）	92.3	91.3	91.7	93.5		92.9	94.4	95.0	94.0			
D I 先行指数（%ポイント）	18.5	74.1	59.3	63.0		66.7	55.6	33.3	33.3			
D I一致指数（ " ）	50.0	42.9	50.0	52.4		42.9	71.4	57.1	42.9			
生産	鉱工業生産（近畿）（季節調整済、前期比・前月比）	-1.6	-2.2	-1.9	0.6	-0.8	-3.5	1.6	1.3	-3.0	0.1	
	鉱工業出荷（近畿）（ " ）	-1.1	-0.8	-3.0	-1.0	-0.9	-2.6	2.0	0.2	-2.2	-0.1	
	鉱工業在庫（近畿）（ " ）	4.9	1.1	0.5	1.0	2.0	-0.3	3.3	0.5	-1.3	1.0	
	鉱工業生産（近畿）鉄鋼（ " ）	-5.2	-1.2	-1.4	4.8	-3.8	1.4	1.4	-3.3	-3.9	2.2	
	金属製品（ " ）	1.6	-0.8	-0.9	-5.4	7.5	-4.9	0.6	13.4	-6.6	1.6	
	一般機械（ " ）	1.3	-1.4	-4.1	1.1	-5.5	-15.5	-0.4	-0.1	1.8	-1.7	
	輸送機械（ " ）	-2.5	11.7	4.4	2.1	0.3	-4.1	10.7	-1.0	-4.5	-2.8	
	電気機械（ " ）	-3.2	0.6	-7.1	-6.0	0.7	-3.2	6.4	-4.1	6.0	-6.1	
	化学（ " ）	0.4	-1.5	-1.1	5.3	2.2	-2.1	1.3	3.9	-3.9	2.4	
	大口販売電力量（関西）	2.2	-2.1	-1.3	-4.1	-4.0	-1.2	-5.6	-2.6	-3.7	-5.6	
雇用	完全失業率（近畿）（%）	5.2	4.5	5.0	5.5	5.2	5.4	5.7	5.9	5.0	4.7	
	就業者数（近畿）（万人）	971	964	969	962	977	966	959	975	982	975	
	雇用者数（近畿）建設業（前年差、万人）	7	1	1	4	0						
	製造業（ " ）	8	4	-5	-7	2						
	運輸業、郵便業（ " ）	-2	0	3	-4	-2						
	卸売業、小売業（ " ）	-4	0	-2	-3	1						
	医療、福祉（ " ）	6	7	4	5	1						
サービス業（医療、福祉以外）（ " ）	10	1	6	5	-6							
有効求人倍率（近畿）（季節調整値、倍）	0.62	0.64	0.66	0.70	0.74	0.70	0.72	0.73	0.74	0.76		
新規求人倍率（近畿）（ " ）	0.99	1.04	1.08	1.17	1.22	1.18	1.19	1.17	1.23	1.27		
賃金	現金給与総額（近畿）	-0.1	-0.4	0.1	-0.1		-0.3	0.4	0.8	-0.4	-100.0	
	所定内給与（近畿）	-0.9	-0.2	0.2	-0.7		-0.8	-0.3	-0.9	-0.3	-100.0	
	所定外給与（近畿）	1.3	0.7	6.0	4.8		6.6	3.2	2.1	5.0	-100.0	
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入（近畿）勤め先収入	-3.4	-2.7	-3.5	3.7	1.9	3.4	5.2	3.0	-1.6	3.6	
定期収入	-0.9	-3.4	-2.3	3.8	1.7	3.4	7.6	4.4	-0.3	0.8		
個人消費	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出（近畿）	2.0	-1.2	-1.5	-1.8	-3.0	3.6	1.8	2.7	-6.5	-5.4	
	大型小売店販売状況（近畿）百貨店+スーパー	-1.5	-2.3	-1.9	-0.8	-2.4	0.2	-0.5	-2.3	-1.5	-3.4	
	コンビニエンス・ストア販売状況（近畿）	4.5	2.8	7.2	1.0	1.4	3.5	-0.7	5.9	1.8	-3.0	
	家電販売額（近畿）	12.3	-13.8	-42.5	-21.1	-29.7	-21.5	-30.2	-14.9	-28.4	-40.0	
	新車登録台数（近畿）	-35.0	-18.5	25.2	46.9	66.0	32.4	66.0	100.4	68.0	46.9	
消費者態度指数（近畿、一般世帯）（原数値）	34.8	36.3	37.2	38.8	39.4	38.3	39.0	39.0	39.8	39.3	39.0	
住宅投資	新設住宅着工戸数（近畿）（季節調整済年率換算、千戸）	118.9	131.8	127.7	129.6	141.1	124.3	125.9	161.8	131.5	129.9	
	（前年比、%）	-5.9	5.2	2.2	6.9	18.0	3.4	3.8	37.6	17.3	1.3	
設備投資	法人企業統計季報（近畿）設備投資 製造業	-32.3	6.5	-5.7	13.8							
	非製造業	-18.5	-9.6	-8.2	-16.8							
	企業立地件数（近畿）（件）						11		19			
公共投資	公共工事請負額（近畿）	-4.0	-6.6	-8.0	3.2	21.5	44.8	-7.7	9.9	40.1	21.6	13.2
輸出入	実質輸出（近畿）（季節調整済、05年=100）	131.2	129.2	126.2	124.8	124.8	128.9	122.8	126.0	122.1	126.2	
	通関輸出（大阪税関）輸出総額	0.5	-0.3	-3.8	-8.3	-7.8	-4.8	-8.3	-11.0	-4.8	-7.3	
	実質輸入（近畿）（季節調整済、05年=100）	112.6	114.6	117.7	113.0	116.0	110.2	111.7	113.4	117.8	116.6	
	通関輸入（大阪税関）輸入総額	13.5	17.1	17.6	6.6	2.1	6.7	1.2	2.5	6.1	-2.5	
物価	消費者物価指数（近畿）生鮮食品を除く総合	-0.3	0.0	-0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	-0.1	-0.1	
	食料及びエネルギーを除く総合	-0.7	-0.4	-1.0	-0.6	-0.5	-0.5	-0.5	-0.3	-0.6	-0.6	
金融	国内銀行預金残高（近畿）	1.8	1.8	1.6	1.2	0.8	1.1	1.1	0.6	0.7	1.0	
	国内銀行貸出金残高（近畿）	-2.4	-1.8	-1.3	-1.1	0.1	-1.4	-0.6	-0.5	0.1	0.6	
倒産	倒産件数（近畿）	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	-3.0	-8.1	-16.5	1.8	-18.1	1.1

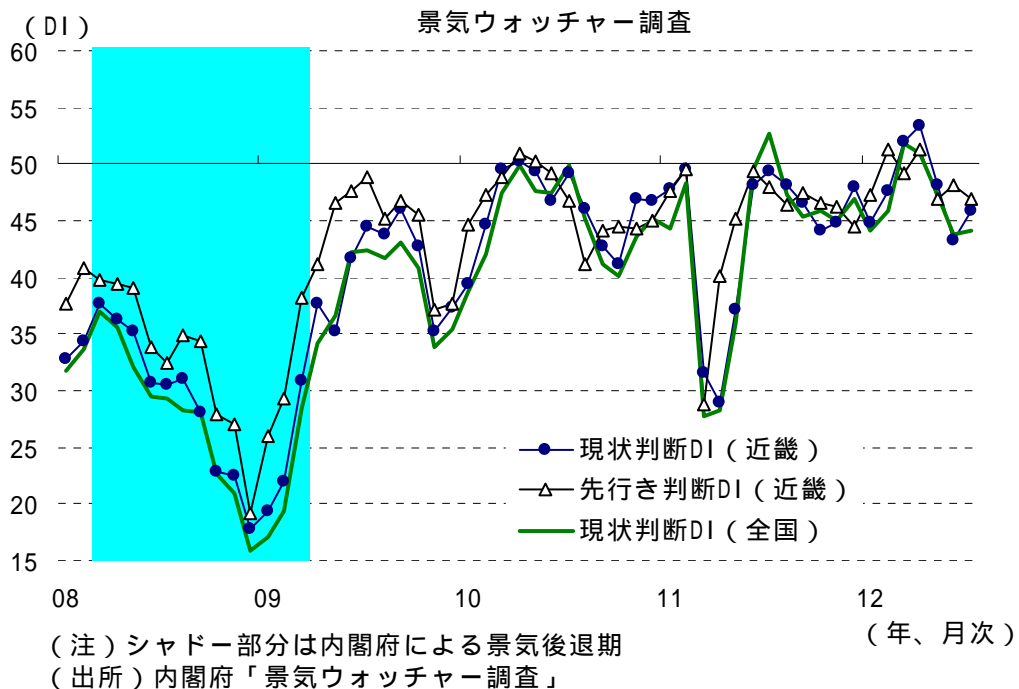
(注) 括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ~ 横ばいで推移している

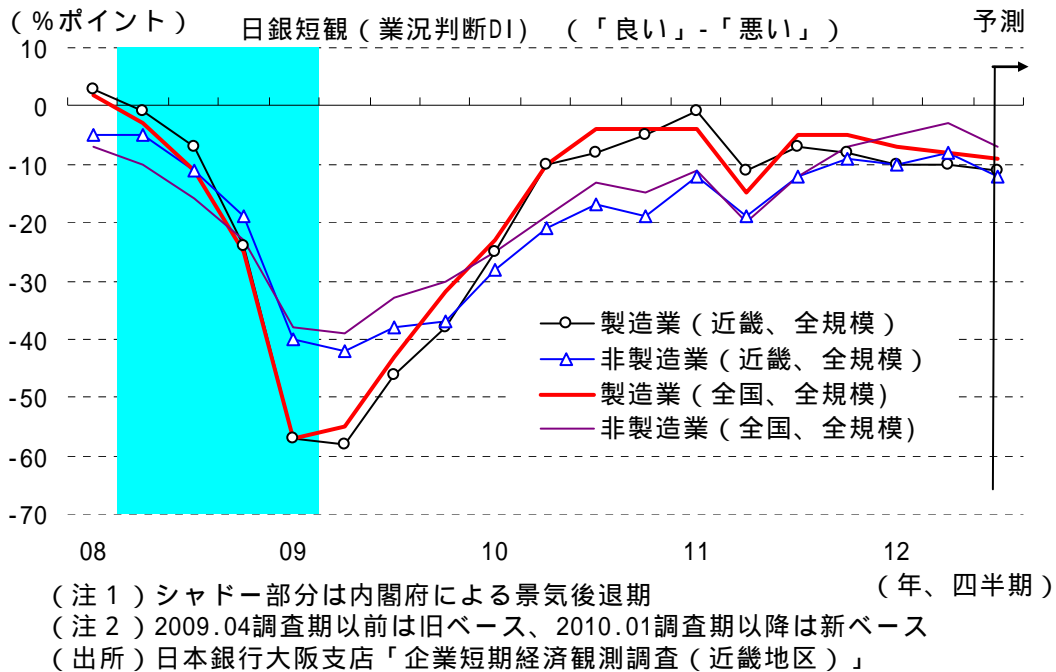
5月の近畿地区の景気動向指数・C I一致指数は3ヶ月ぶりに低下した。採用7系列のうち、有効求人倍率、百貨店販売額、ガス消費量はプラスに寄与したが、その他はマイナスの寄与となった。また、5月のC I先行指数も低下した。採用9系列のうち、鉱工業在庫率、住宅着工戸数、倒産件数、日経商品指数、消費者態度指数がマイナスに寄与した。



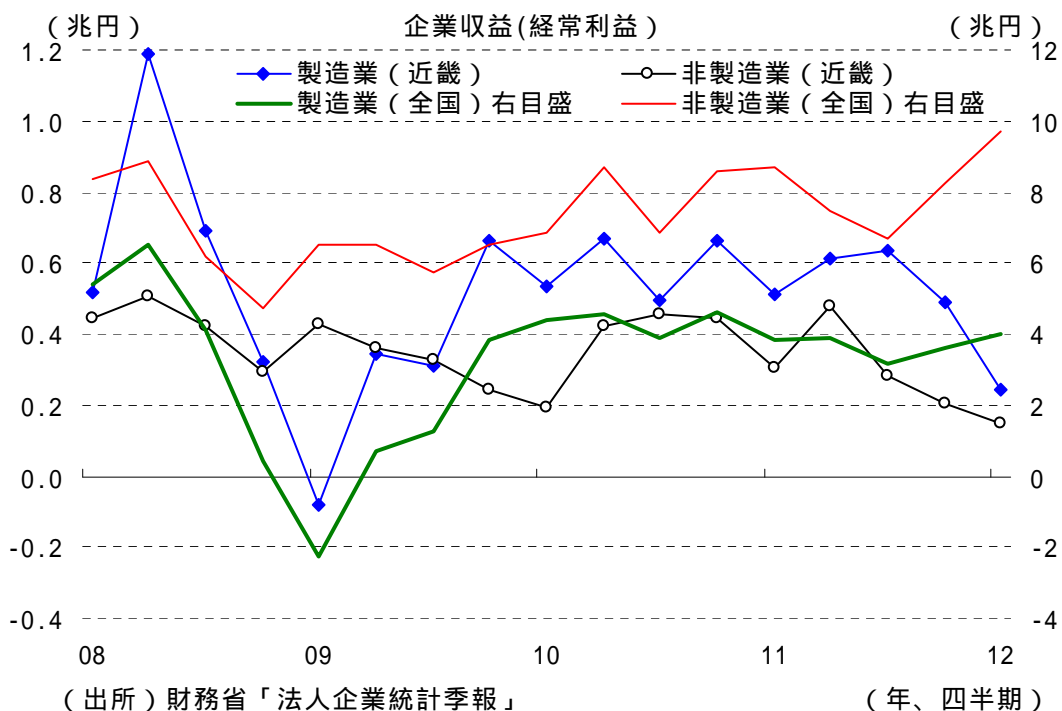
景気ウォッチャー調査によると、7月の近畿地区の現状判断D Iは、前月差で+2.7ポイントの45.9となり3ヶ月ぶりに上昇したが、景気の横ばいを示す50を下回った。家計動向関連D Iも前月比+4.3ポイントの44.4と上昇した。先行き判断D Iについては、前月比-1.1ポイントの47.0と再び低下に転じた。家計動向関連の先行きは、前月比+0.3ポイントの46.2と2ヶ月連続で上昇した。



日銀短観6月調査によると、近畿地区の業況判断DI（「良い」 - 「悪い」）は全規模・全産業で -9 と3月調査と変わらずであった。業種別では、製造業が -10 と横ばい、非製造業が -8 と2ポイント改善した。先行きについては、全産業で -12（3ポイント低下）、製造業、非製造業でそれぞれ -11（1ポイント低下）、-12（4ポイント低下）と悪化が見込まれている。

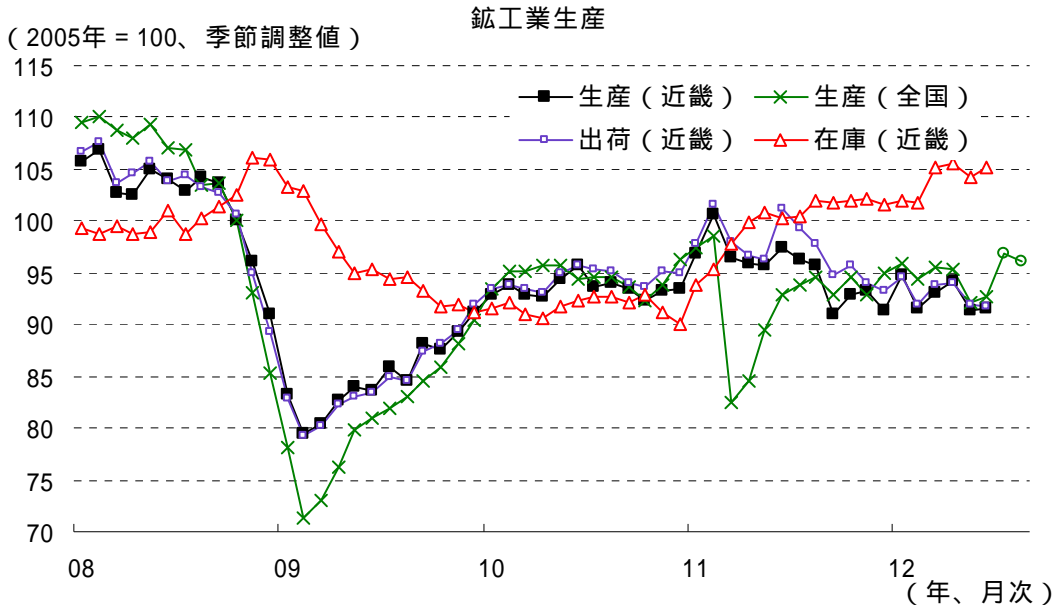


2012年1~3月期の近畿地区の企業の経常利益（全産業）は、前年比 -51.9%と大幅に減少した。業種別にみると製造業は同 -52.1%、非製造業では同 -51.6%と共に大きく落ち込んでいる。前者は大手電器メーカー、後者は関西電力の赤字決算が大きく影響している。今後の企業収益は、特定企業要因による大幅減という状況は解消するものの、厳しい状況が続くと見込まれる。

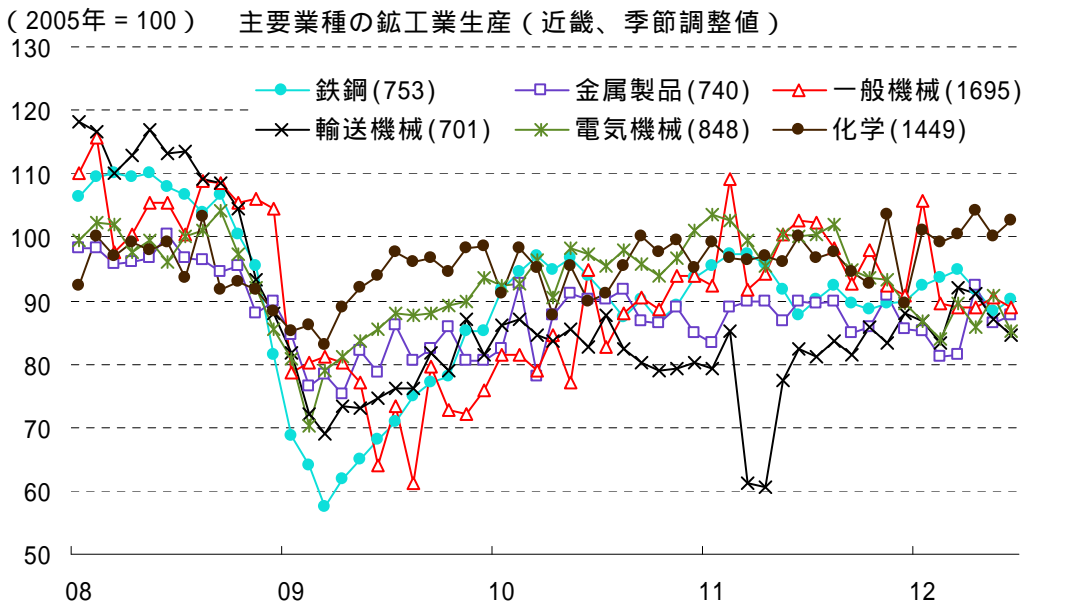


2. 生産 ~ 横ばい圏で推移

6月の近畿地区の鉱工業生産は前月比+0.1%となり、横ばい圏で推移している。鉄鋼、金属製品、電子部品・デバイス、化学などが増加した一方、非鉄金属、一般機械、輸送機械、電気機械などが減少した。関西で比重の高い電気機械の生産が低調であり、世界経済の減速が続く中、関西の鉱工業生産は当面横ばい圏で推移すると見込まれる。

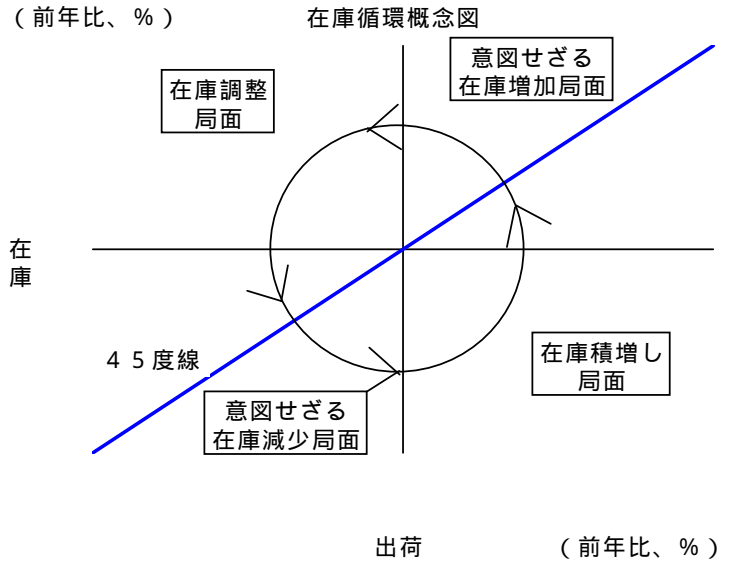
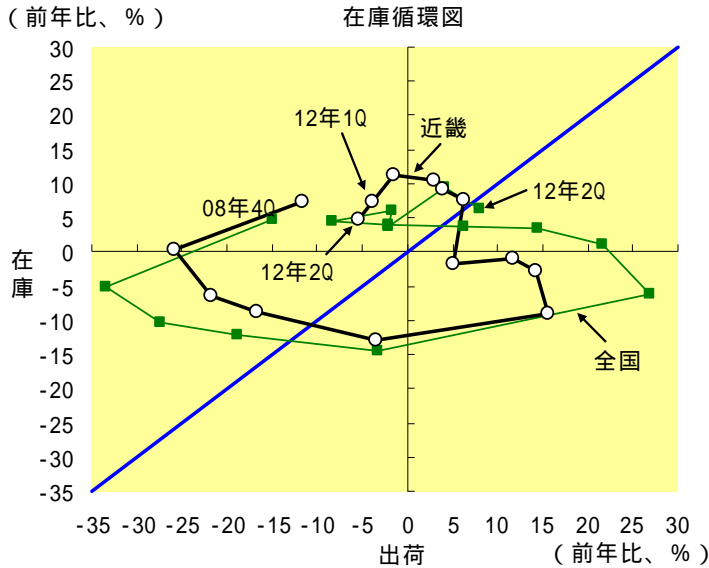


(注) 生産 (全国) の「×」は製造工業生産予測調査結果から試算した予測
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



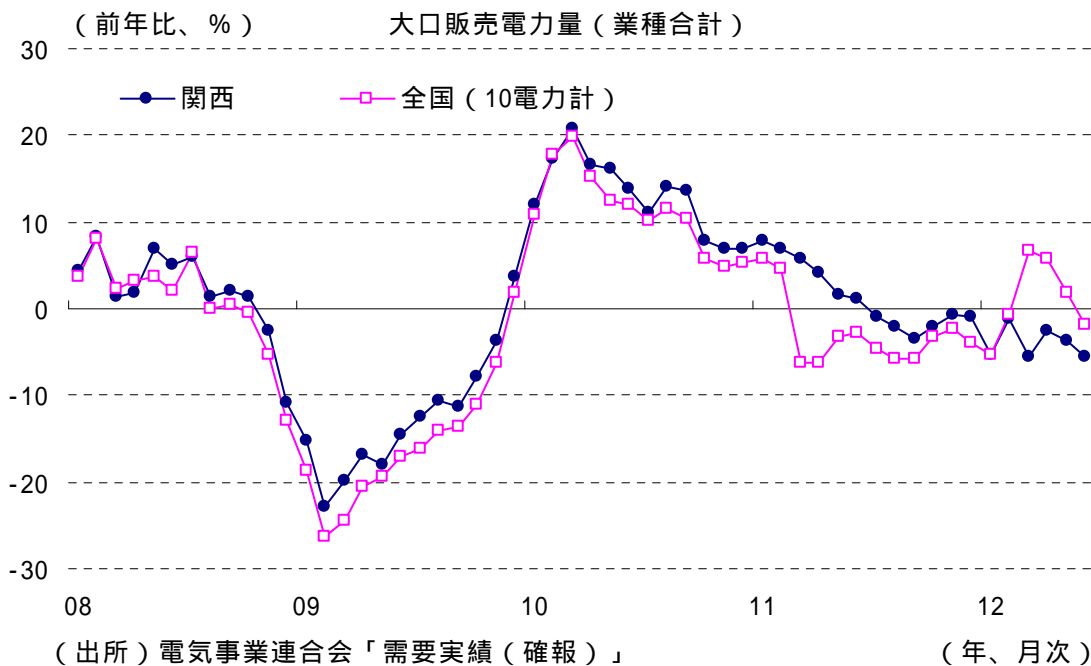
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト (鉱工業 = 10,000)
 (出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

6月の近畿地区の鋳工業出荷は、前月比 - 0.1%とほぼ横ばいとなった。電気機械、電子部品・デバイス、化学などで出荷が増加したが、鉄鋼、一般機械、輸送用機械などで減少した。鋳工業在庫は、前月比 + 1.0%と増加に転じた。一般機械、精密機械、電気機械、情報通信機械などで在庫の削減が見られたが、電子部品・デバイス、石油・石炭製品などで在庫が積み上がった。



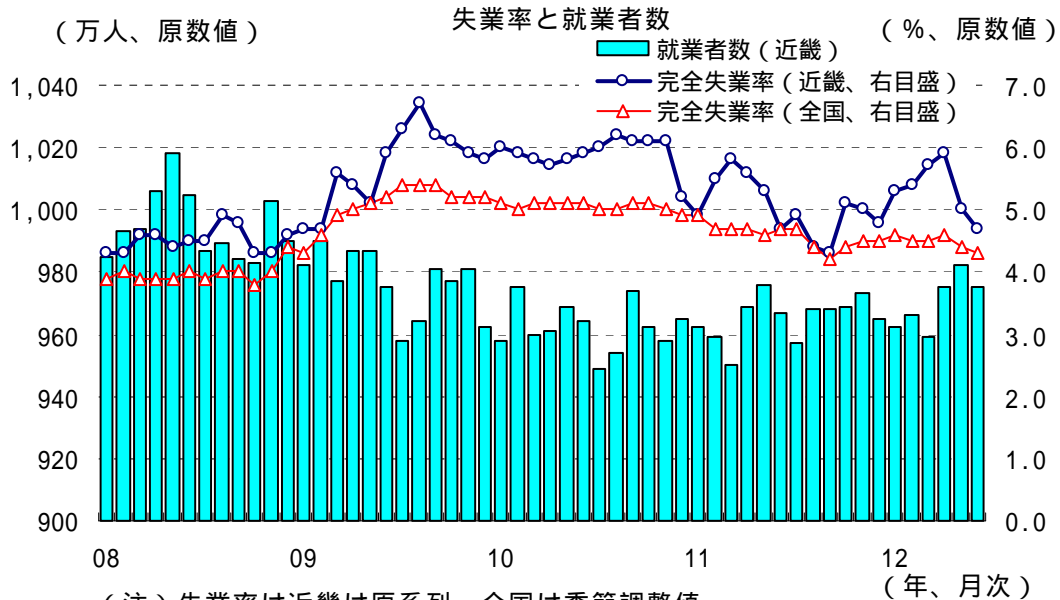
(注) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
(出所) 近畿経済産業局「鋳工業生産動向」

6月の関西電力の大口販売電力量は、前年比 - 5.6%と12ヶ月連続の前年割れとなった。業種別にみると、製造業では主要11業種中、鉄鋼を除く10業種で前年割れとなった。鉄鋼は、一部顧客の自家発電設備の点検によって販売電力量が増加し、前年比プラスとなった。また、非製造業では、水道業が前年比プラスとなったものの、鉄道業、その他で同マイナスとなった。

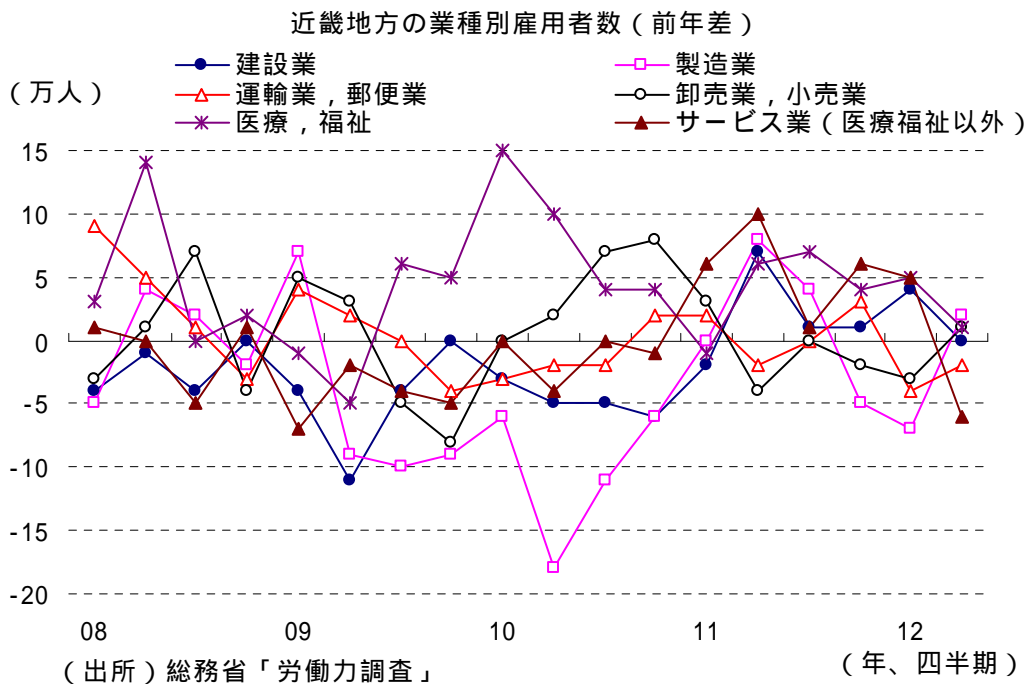


3. 雇用 ~ 厳しいものの、持ち直しの動き

6月の近畿の完全失業率は4.7%と前年差横ばいとなった。就業者数は前年差+8万人と増加し、完全失業者数は横ばいであった。また、雇業者数は同-1万人と減少した。業種別(2012年4~6月期)では、製造業、医療福祉が増加している一方で、サービス業(医療福祉以外)が減少した。雇用情勢は、景気が横ばい圏で推移する中で持ち直しの動きが見られるが、今後は一進一退の推移となる。



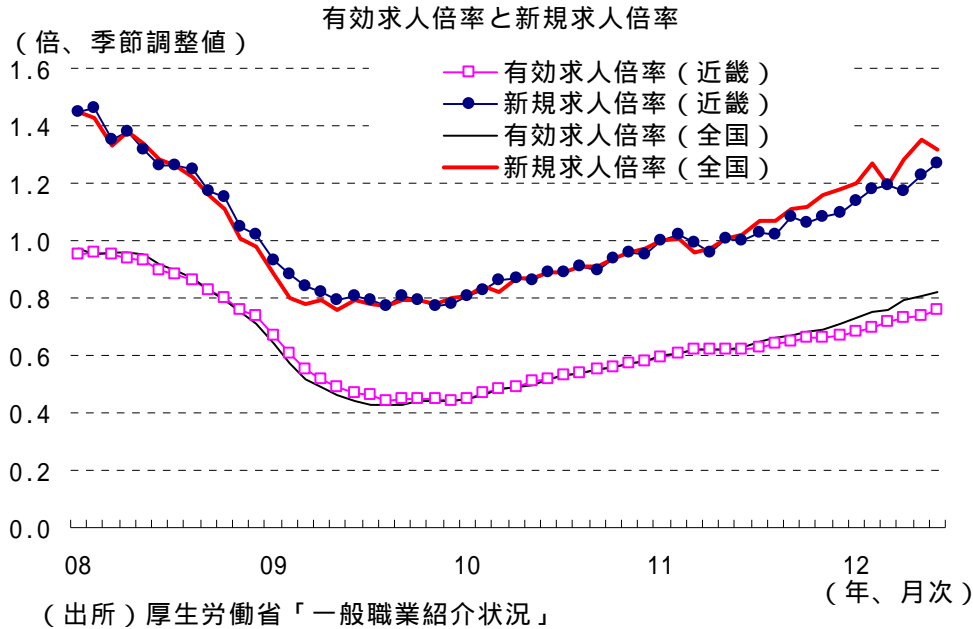
(注) 失業率は近畿は原系列、全国は季節調整値
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」

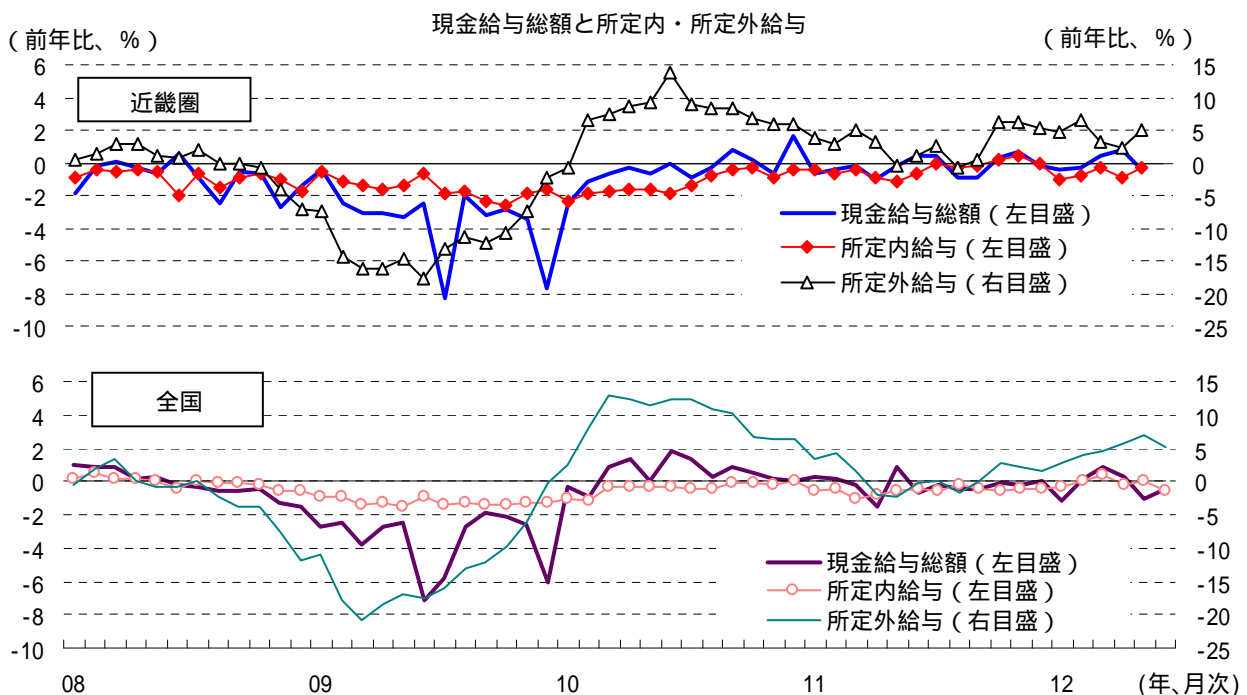
(年、四半期)

6月の近畿圏の求人動向は、有効求人数が前月比+1.8%と増加、有効求職者数が同-0.3%と減少した結果、有効求人倍率は0.76倍（前月差+0.02ポイント）と7ヶ月連続で上昇した。有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.27倍（前月差+0.04ポイント）と2ヶ月連続で上昇した。新規求人数が前月比-1.3%と減少したが、新規求職申込件数が同-4.0%とさらに減少したためである。



4. 賃金 ~ 横ばい圏で推移

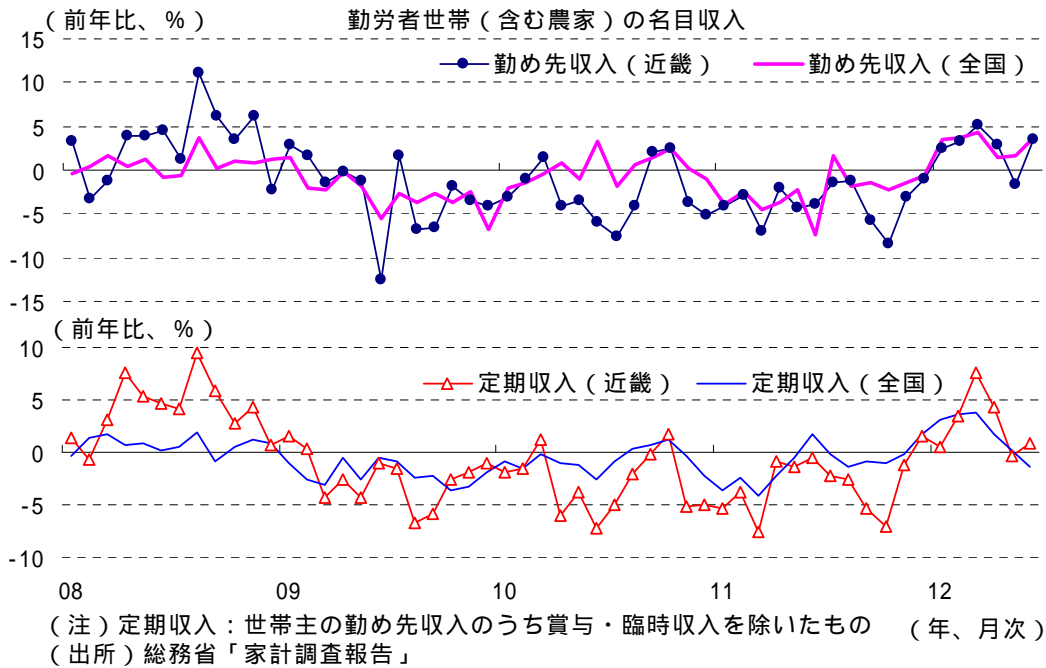
5月の近畿圏の現金給与総額は、前年比-0.4%と3ヶ月ぶりに減少した。所定内給与は前年比-0.3%と6ヶ月連続で減少、所定外給与は同+5.0%と9ヶ月連続で増加した。今後については、所定外給与のプラス幅は縮小するものの、所定内給与の減少は小幅にとどまり、賃金は横ばい圏で推移すると見込まれる。



(注) 近畿圏は当社集計、2府4県ベース。

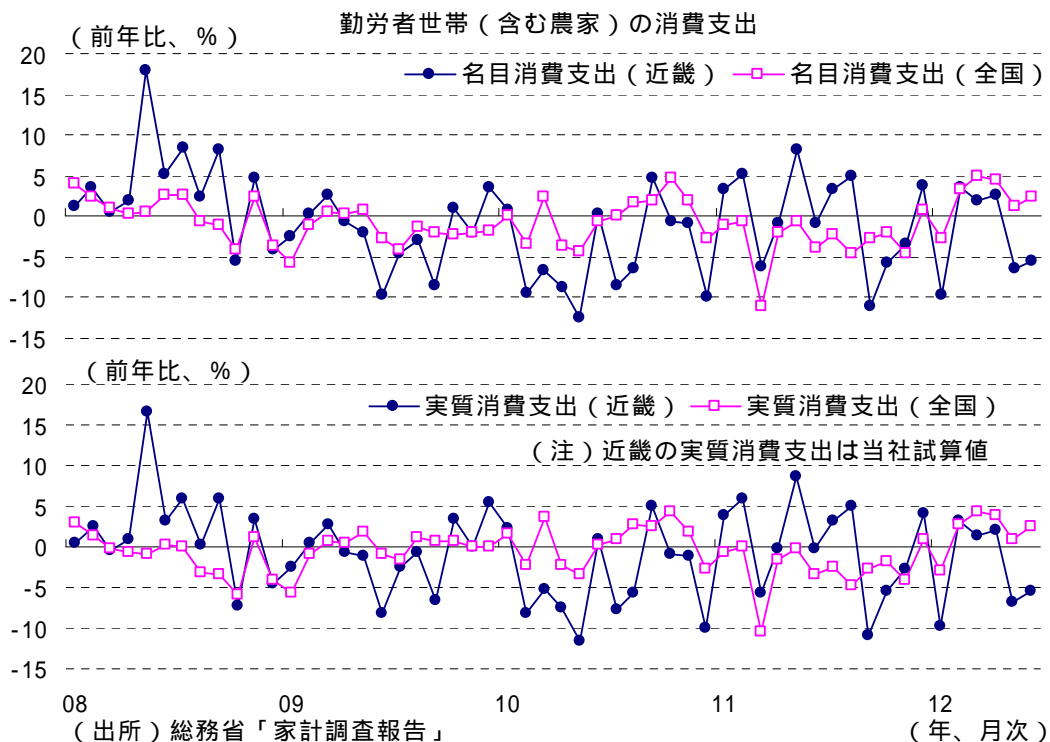
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計」、近畿地区2府4県「毎月勤労統計地方調査」

家計調査によると、6月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の勤め先収入は前年比+3.6%の56.8万円と増加に転じた。前年比では増加したが、一昨年と比較するとまだ低い水準となっている。また、5月に6ヶ月ぶりに前年比で減少となった世帯主の定期収入は、6月は同+0.8%の33.9万円と再び増加に転じ、一昨年の水準もわずかではあるが上回っている。

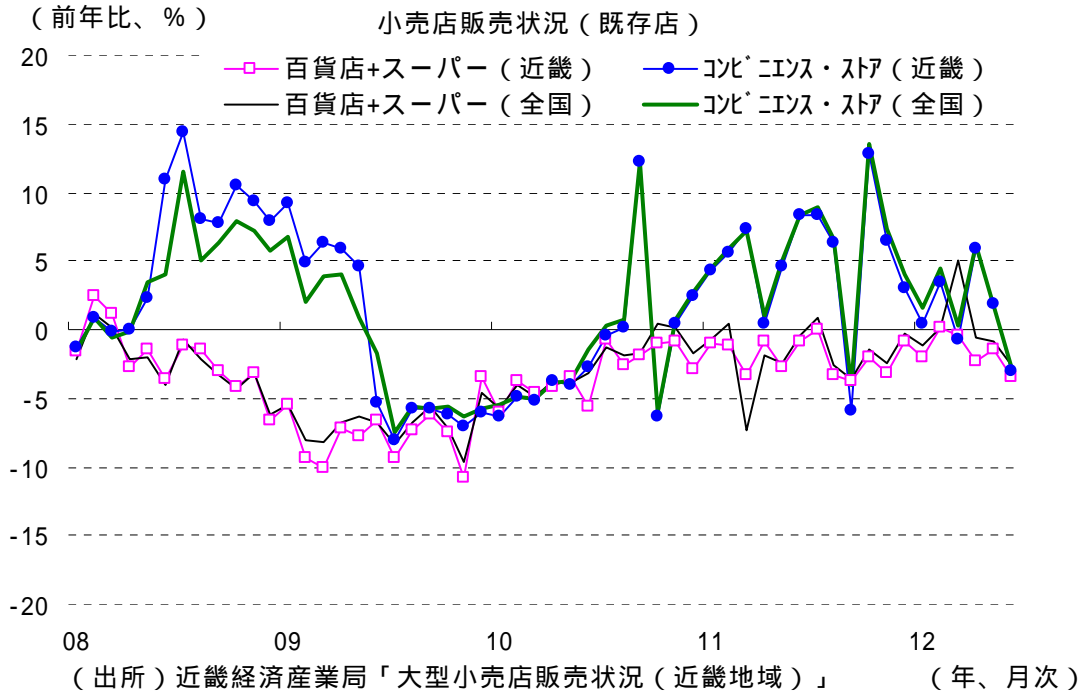


5. 個人消費 ~ 横ばい圏で推移

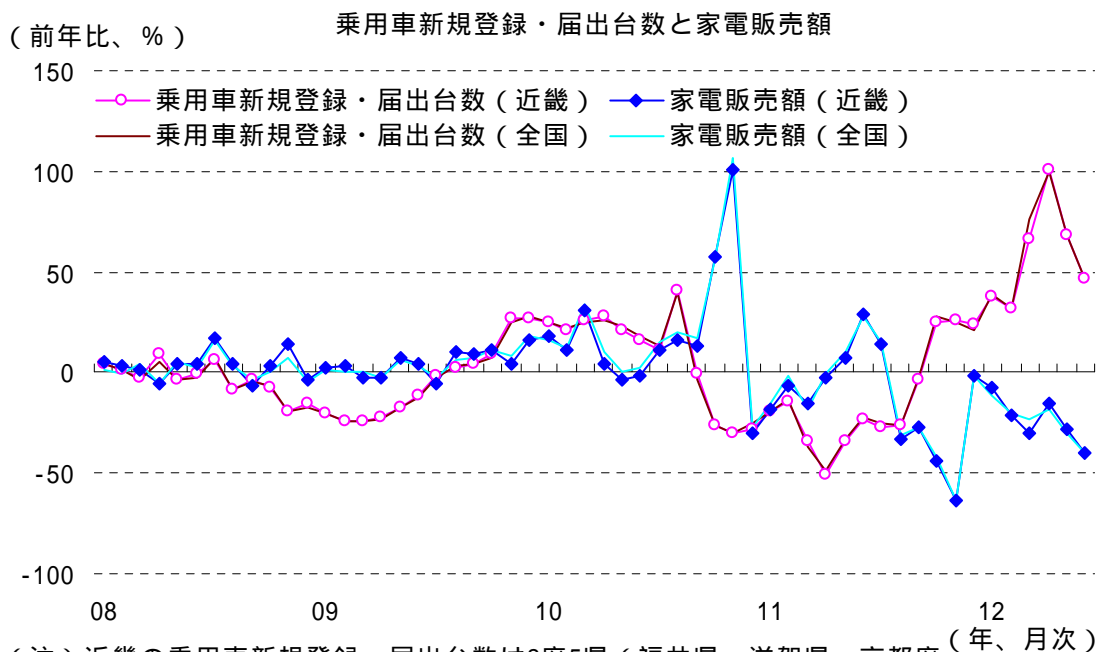
家計調査によると、6月の近畿圏の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比 - 5.4%と2ヶ月連続で減少した。個人消費の動向を表す各種指標は、一部に弱い動きも見受けられ、全体としてみると横ばい圏での推移となっている。今後は、雇用を持ち直しの動きがあるものの、雇用所得環境は厳しい状況が続き、個人消費は横ばい圏で推移するものと見込まれる。



6月の近畿地区の大型小売店（百貨店＋スーパー）の販売額は、既存店ベースで前年比 - 3.4%と4ヶ月連続で減少した。品目別にみると、衣料品、身の回り品、家具・家電・家庭用品などすべての項目が減少した。また、全店ベースでも同 - 3.2%と3ヶ月連続で減少した。一方、コンビニエンス・ストアの販売額は既存店ベースで同 - 3.0%、全店ベースで同 + 0.5%となった。



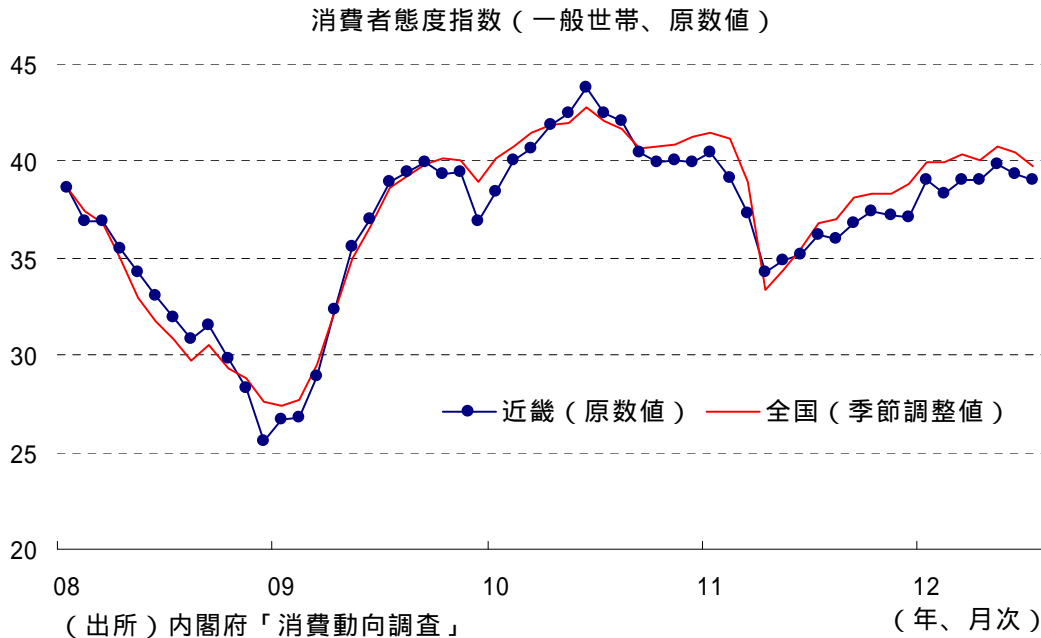
6月の近畿地区の自動車販売台数は、東日本大震災の影響で前年の水準が低かったことに加えて、エコカー補助金の効果もあって前年比 + 46.8%と大幅に増加した。前年比での増加は9ヶ月連続である。一方、6月の近畿地区の家電販売は、前年比 - 40.0%と11ヶ月連続で減少となった。照明器具は増加したものの、デジタルカメラは横ばいとなり、テレビ、DVD、エアコンなどが大幅に減少した。



(注) 近畿の乗用車新規登録・届出台数は2府5県（福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）、家電販売は福井県を除く2府4県。

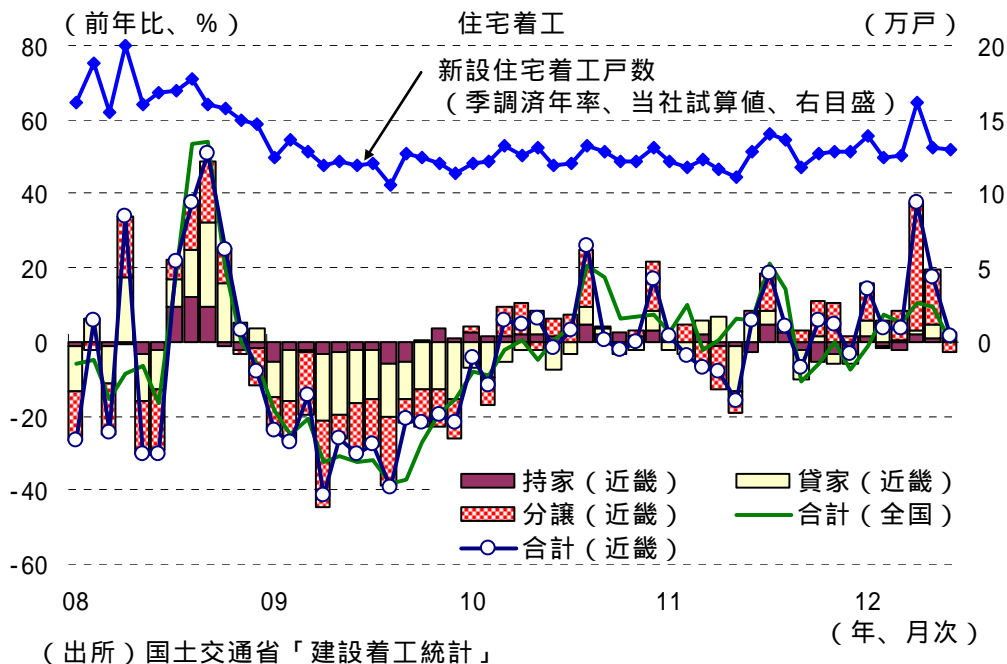
(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

消費者マインドを表す指標とされる消費者態度指数（近畿、一般世帯、原数値）は改善基調が続いてきたが、7月は前月差 - 0.3%ポイントの39.0と2ヶ月連続で低下した。また、前年同月に比べると2.8%ポイント上昇となった。生産の持ち直しや、所定外給与の増加などによる所得環境の持ち直しへの期待が、消費者マインドの改善につながってきたが、先行き不安から頭打ちとなっている。



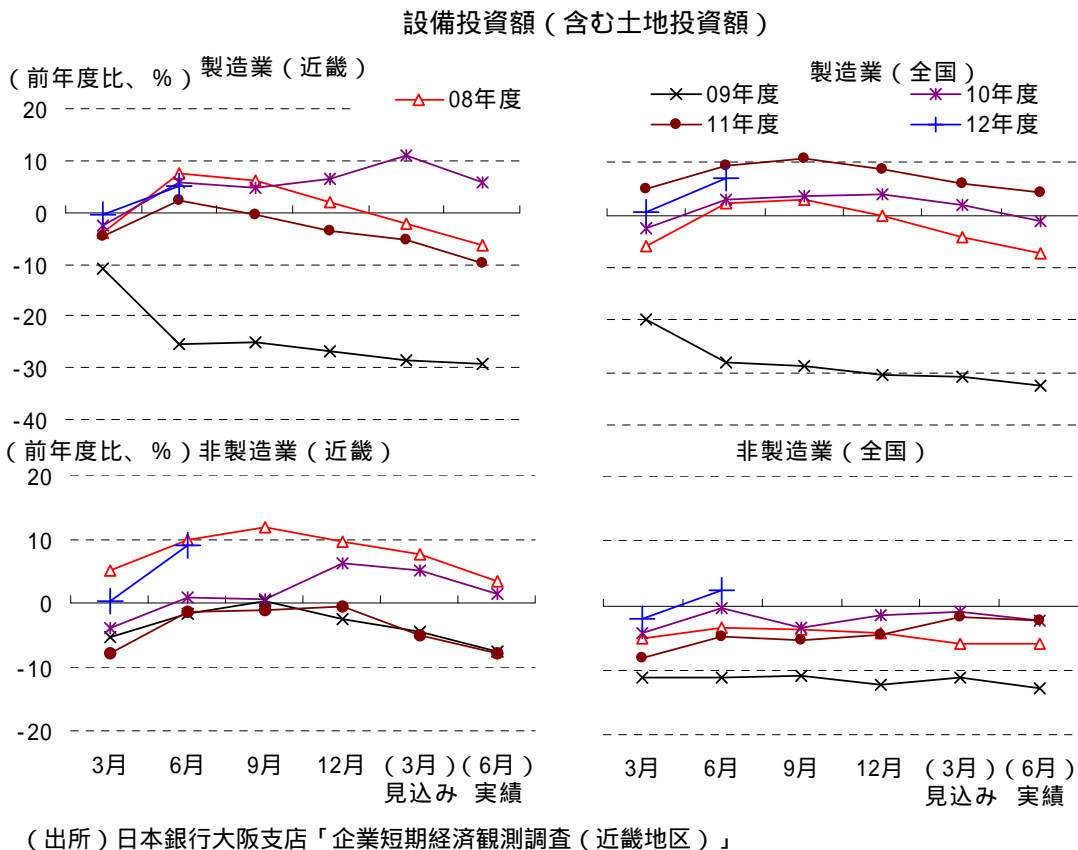
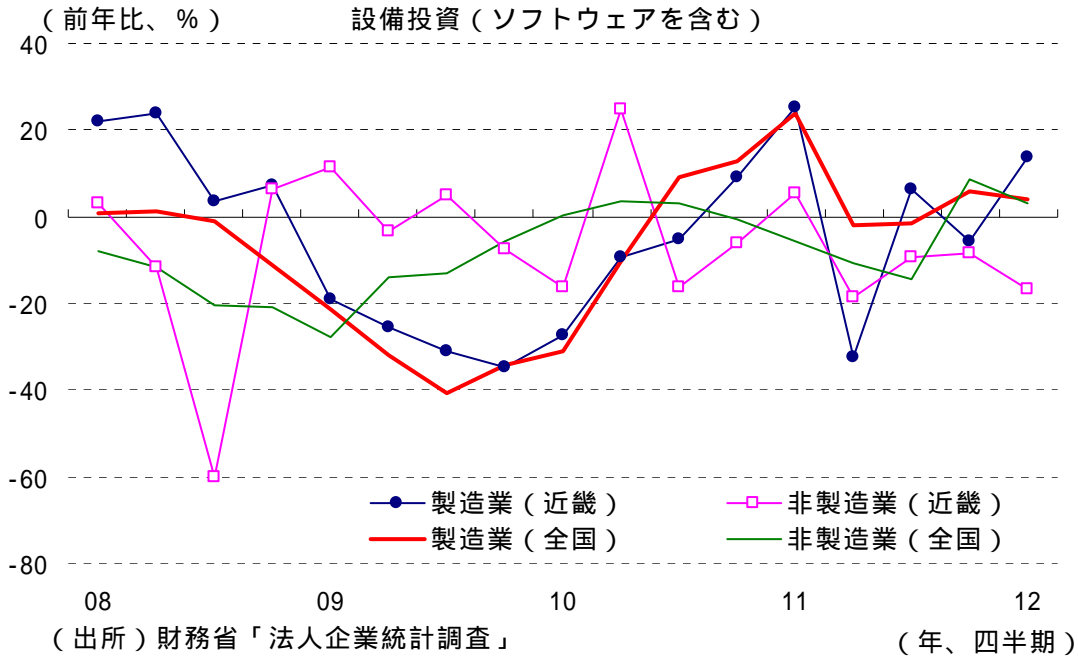
6. 住宅投資 ~ 緩やかに持ち直している

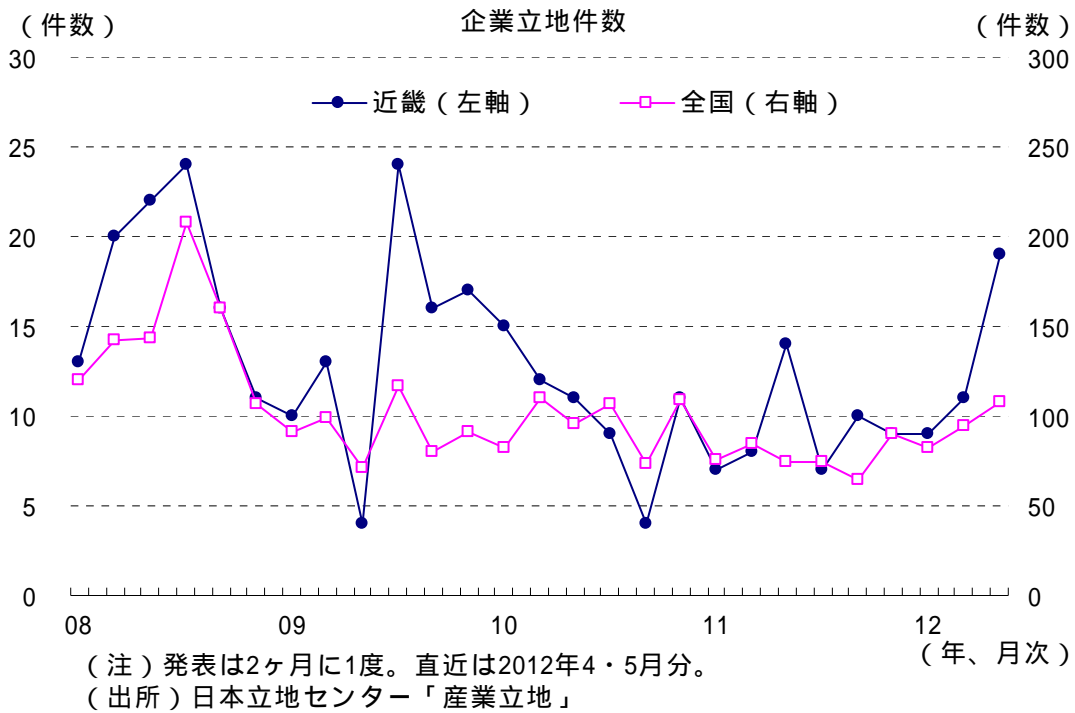
6月の近畿圏の住宅着工戸数は、前年比+1.3%の10,845戸となり、6ヶ月連続で増加した。分譲マンション10ヶ月ぶり、分譲戸建が3ヶ月ぶりに前年比で減少したが、持家が3ヶ月連続、貸家が6ヶ月連続で増加した。今後の住宅投資は、景気や雇用・所得環境の持続的な回復に懸念が残る中、概ね横ばい圏での推移が見込まれる。



7. 設備投資 ~持ち直しつつある

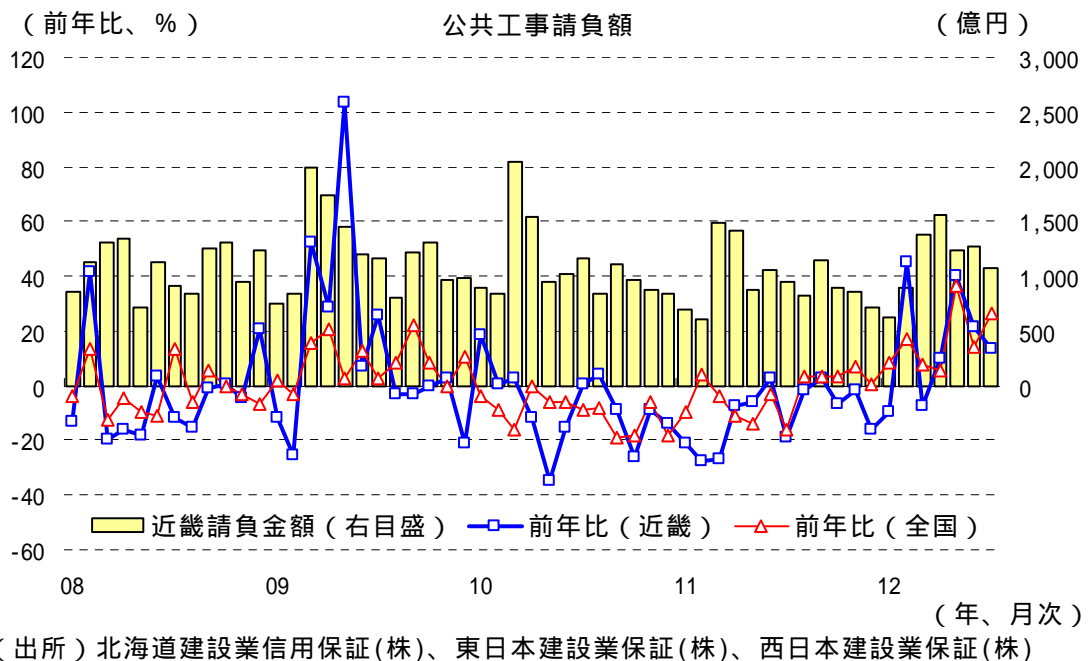
2012年1~3月期の近畿地区の企業の設備投資（ソフトウェアを含む）は前年比 - 3.5%と4四半期連続で減少した。製造業は同 + 13.8%とプラスに転じたが、非製造業は同 - 16.8%と4四半期連続のマイナスとなった。日銀短観6月調査によると、12年度の設備投資は、製造業では前年比 + 5.2%、非製造業では同 + 9.0%と見込まれている。





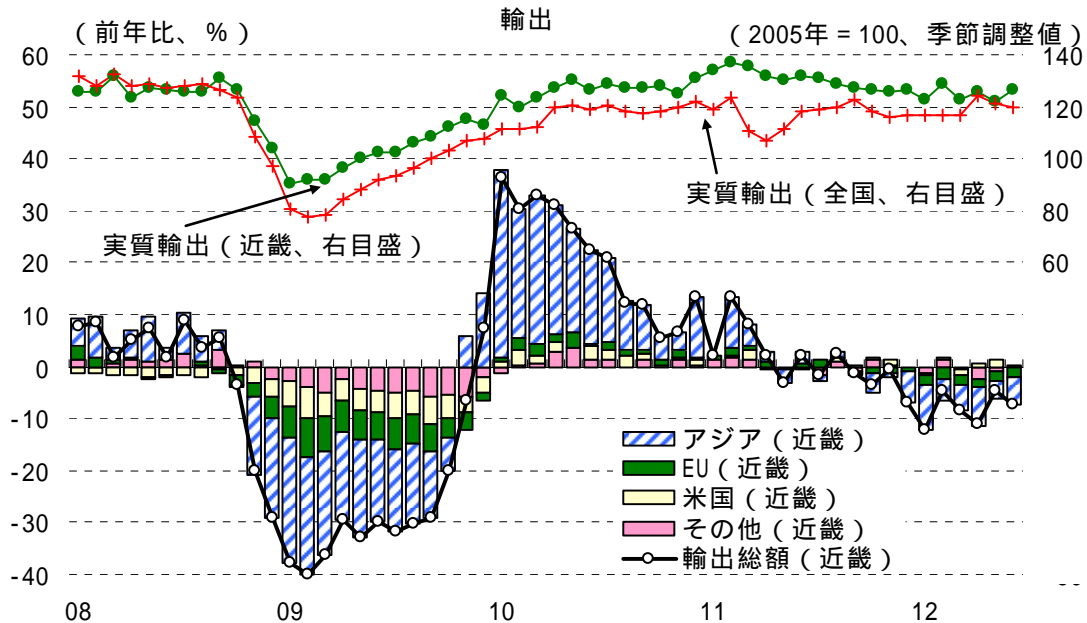
8. 公共投資 ~このところ増加している

7月の近畿地区の公共工事請負額は、前年比13.2%の増加となった。昨年の水準が公共工事の5%留保の影響などもあって低かったことや、和歌山県で災害復旧工事が続いていることなどが増加につながった。公共投資は増加しているが、近畿地区では東日本大震災の復興需要による影響は小さく、増加幅は限定的なもの留まると見込まれる。



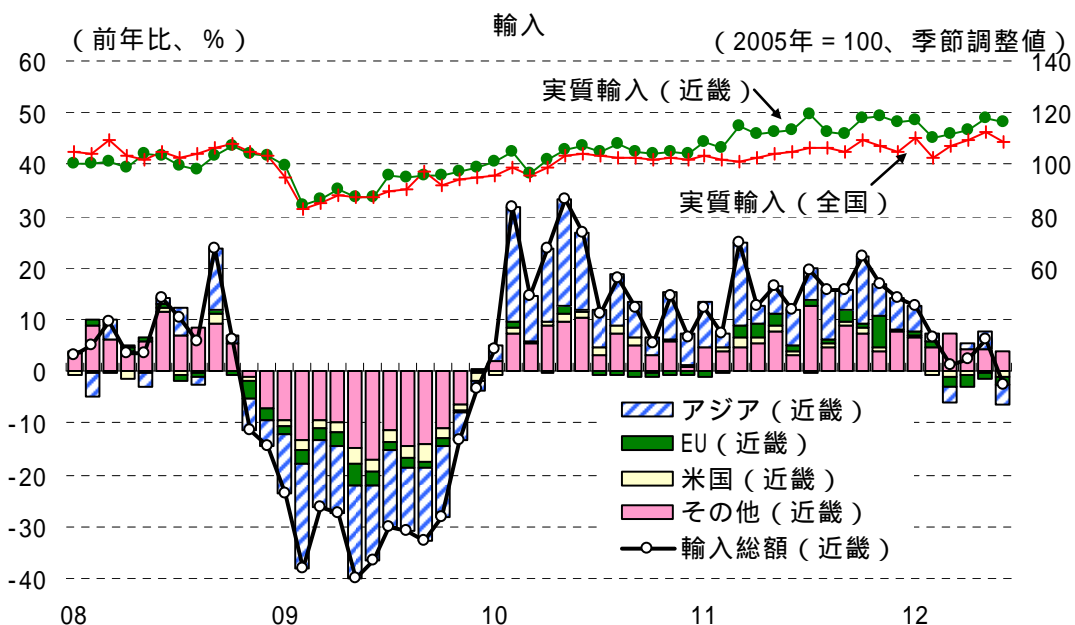
9. 輸出入 ~ 輸出は弱い動き、輸入は横ばい

6月の近畿地区の実質輸出は前月比+3.4%と増加に転じたが、弱い動きとなっている。輸出額は前年比-7.3%の1兆1,773億円となった。地域別では米国向けが減少に転じ、アジア、EU向けは引き続き減少した。財別では自動車は9ヶ月連続で前年比増加したが、電気機器で大幅なマイナスが続くなど大半の財で減少となった。近畿圏の輸出は自動車の比重が小さく、当面、弱い動きが見込まれる。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」 (年、月次)

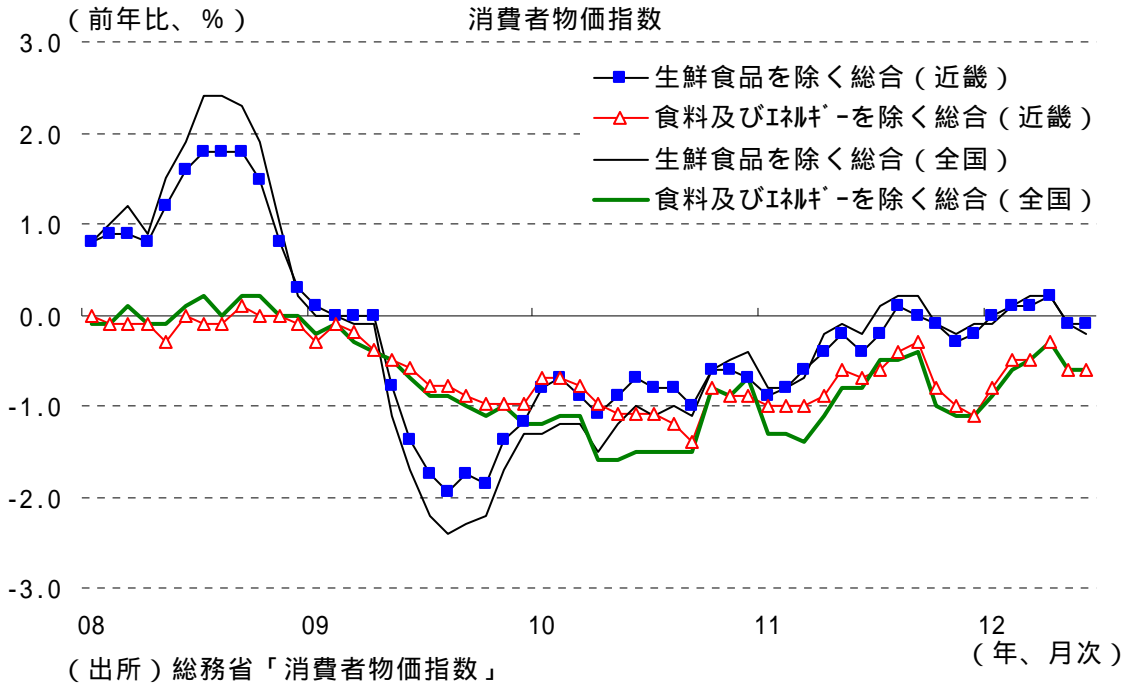
6月の近畿地区の実質輸入は前月比-1.0%と4ヶ月ぶりに減少したが、横ばい圏での推移が続いている。輸入額は1兆744億円、前年比-2.5%と2年半ぶりに減少した。地域別にみると、アジアからの輸入が-6.2%と3ヶ月ぶりに減少した。財別の前年比では、鉱物性燃料の大幅増加が続いている。今後は、燃料の輸入増など押し上げ要因もあるが、総じて見ると横ばい圏での推移が見込まれる。



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」、日本銀行大阪支店「実質輸出入」 (年、月次)

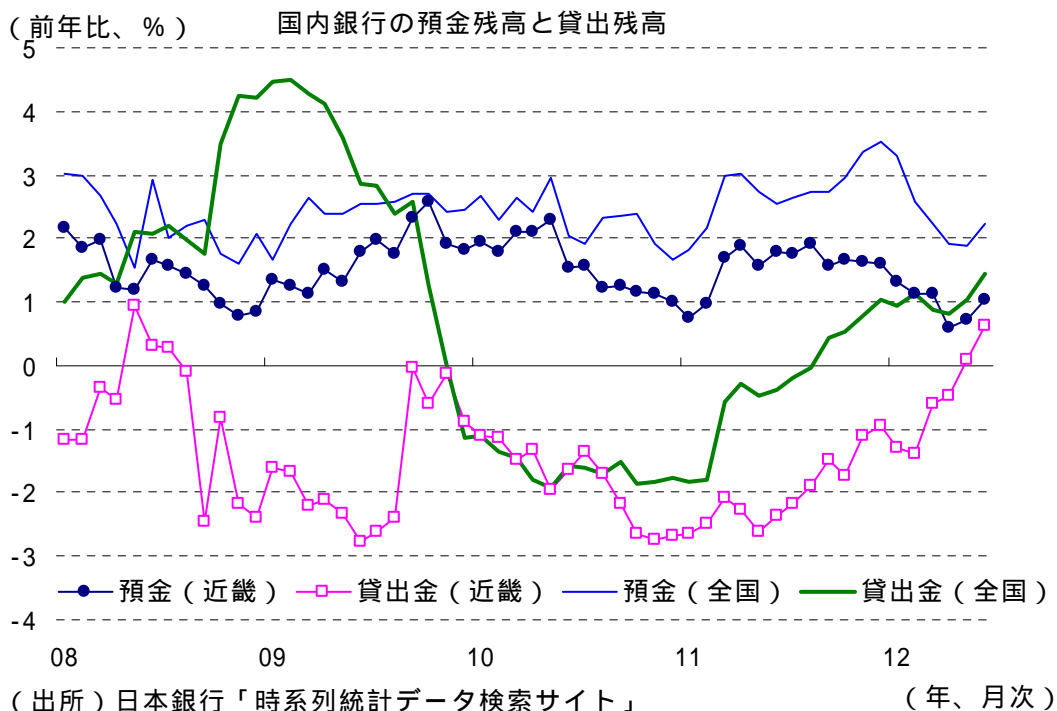
10. 物価 ~ 消費者物価は横ばい

近畿圏の消費者物価は、横ばいでの推移が続いている。6月は、総合で前年比+0.0%と横ばい、生鮮食品を除く総合で同-0.1%とほぼ横ばいとなった。また、食料・エネルギーを除く総合では同-0.6%と下落が続いた。国内商品市況が足下で下落してきていることに加え、家計の所得環境も依然として厳しいため、川下の物価の上昇圧力は弱い。



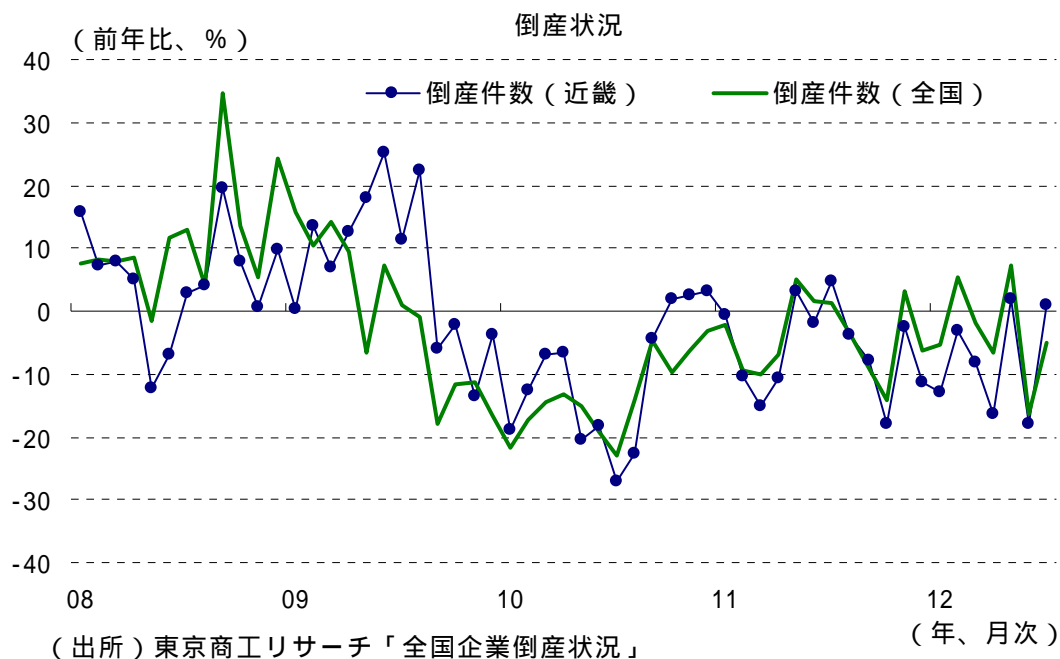
11. 金融 ~ 預金は増加、貸出は横ばい

6月の近畿地区の預金残高（国内銀行ベース）は、前年比+1.0%の102兆円となった。定期性預金は前年比で減少が続いているが、要求払預金が増加している。一方、近畿地区の6月の貸出残高（国内銀行ベース）は、同+0.6%の58.0兆円と2ヶ月連続で増加した。企業の資金需要が乏しいものの前年比でのマイナス幅は縮小してきており、住宅ローンの伸び率もほぼ横ばいで推移している。



12. 倒産 ~ 倒産件数、負債総額ともに増加

7月の近畿地区の倒産件数は、前年比+1.1%の288件となった。倒産件数は、昨年7月以降は月300件を下回る水準が続いている。また、倒産企業の負債総額は同+1,371.5%の4,166億円となり、3ヶ月連続で増加した。大阪府で消費者金融業者が巨額の負債を抱えて破産したことが、負債総額の増加をもたらした。



【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		→	輸出	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	↘		↘
個人消費	全国	↗		→	輸入	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	→		→
	関西	→		→		関西	→		→
住宅投資	全国	→		↗	生産	全国	→		→
	東海	→		→		東海	→		↘
	関西	↗		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	→		→
	東海	↗		↗		東海	→		→
	関西	↘		↗		関西	→		→
公共投資	全国	↗		↗	賃金	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	→		↘
	関西	↗		→		関西	→		→

: 晴れ
 : 薄日
 : 曇り
 : 小雨
 : 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャド一部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は8月2日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目		7月のコメント	8月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが一服している
	関西	横ばいで推移している	横ばいで推移している
2. 生産	全国	横ばい	横ばい
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
3. 雇用	全国	厳しい中で一進一退	厳しいものの、持ち直しの動き
	東海	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きが弱まっている
	関西	厳しい中で一進一退	厳しいものの、持ち直しの動き
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移
	関西	緩やかに持ち直している	横ばい圏で推移
6. 住宅投資	全国	緩やかな持ち直し基調にある	緩やかな持ち直し基調にある
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
7. 設備投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	増加しつつある	増加しつつある
	関西	持ち直しつつある	持ち直しつつある
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	下げ止まっている	横ばい圏で推移
	関西	下げ止まっている	このところ増加している
9. 輸出入	全国	輸出は持ち直しの動きがみられる、輸入は増加している	輸出は持ち直しの動きがみられる、輸入は増加している
	東海	輸出、輸入とも増加	輸出、輸入とも増加が一服
	関西	輸出は弱い動き、輸入は横ばい	輸出は弱い動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価、消費者物価ともに横ばい	国内企業物価は緩やかに下落、消費者物価は横ばい
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は横ばい
	関西	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加	銀行貸出、マネーストックともに緩やかに増加
	東海	預金は増加、貸出は減少	預金は増加、貸出は小幅に増加
	関西	預金は増加、貸出は横ばい	預金は増加、貸出は横ばい
12. 倒産	東海	倒産件数、負債総額ともに減少	倒産件数は増加、負債総額は減少
	関西	倒産件数は減少、負債総額は増加	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シャドウ部分は前月と比較して見方を変更した項目(11.金融、12.倒産を除く)

「グラフで見る関西経済」の見方

【今月の景気判断】

レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

現況・・・各項目の現在の「水準」を晴れ、薄日、曇り、小雨、雨の5段階に分類。

～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、改善、横ばい、悪化の3段階に分類。

(注)

現況を問わず天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が改善、悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び東海地区との比較】

【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と東海地区（グラフで見る東海経済）の判断と、一覧表で比較。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様のご決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。